

第 85 回全国都市問題会議 報告書

令和 5 年 10 月 13 日（金）

知立市議会議員

小林昭弐様

報告者：篤心会

知立市議会議員

山崎りょうじ

◆日にち：令和 5 年 10 月 12 日（木）

◆場 所：青森県八戸市

八戸市公会堂(住所:八戸市内丸 1-1-1)

テーマ:文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

- 1.文化芸術・スポーツと都市
- 2.文化芸術・スポーツの可能性
- 3.都市自治体に求められる視点

●基調講演▶ アートの役割って何だろう？

講師:東京藝術大学長、アーティスト 日比野克彦氏

【所感】

『地域の課題をアートで解決する。社会貢献こそが芸術家の役割である』とのことで、地域住民に対して、芸術・文化の素晴らしさを広め、豊かな人間関係を築くことに関する事業を行い、人にやさしく、アートのあふれるまちづくりに寄与する活動などを行っている。

アートを通じて、人と人・人と地域・自然、地域と地域のコミュニケーションを促し、現代社会での「絆」の必要性やあり方について検証していくことの重要性を感じた。

また、ワークショップやアートイベントなど、大人も子どもも一緒にアートを通じて人や社会とつながる幸せを感じたり、どの世代も安心して暮らせる笑顔あふれるまちづくりをしたいと改めて思った。



●主報告 青森県八戸市長 熊谷雄一▶ 八戸市の文化・スポーツによるまちづくり

【プロフィール】

- ・昭和 37 年 9 月 7 日生まれ
- ・昭和 60 年日本大学法学部政治経済学科卒業
- ・平成 13 年八戸市議会議員
- ・平成 15 年青森県議会議員
- ・令和 3 年八戸市長

【所感】

スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会もあり、八戸市では、市民が様々な形でスポーツに関わることにより、健康で生きがいを感じることができる施策を効果的かつ効率的に推進している。YS アリーナ八戸の供用開始やフラット八戸の開場、プライフーズスタジアムの照明設備完成など、市内に於いて運動施設の整備を進めている。

スポーツを通じた人材育成や市民の健康維持・増進を図るための支援を推進し、更にはスポーツ産業振興による地域活性化に向けて協議会を立ち上げるなど、知立市もスポーツなどを通じて、市民生活と経済を元気に豊かにしていくために、新しい風を吹き込みながらの中長期的な視点と取り組みが必要だと感じた。

●一般報告

文化ディレクター 吉川由美▶まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる仙台市生まれ。プロデューサー、演出家。コミュニティに文化芸術体験を仕掛け、観光、産業、教育、医療・福祉をクロスする活動を行う。宮城県大河原町の「えずこホール」のコミュニティプログラム運営、青森県八戸市の「八戸ポータルミュージアム はっち」のディレクターを歴任。宮城県南三陸町では 2010 年から「きりこプロジェクト」、2012 年から子どもたちの歌作りワークショップを展開するほか、観光アドバイザーも務める。「きりこプロジェクト」は 2013 年度ティファニー財団賞受賞。有限会社ダ・ハ プランニング・ワーク代表取締役、アート・イニシアティブ ENVISI 代表

・八戸ポータルミュージアムはっちの説明のなど

平成 23 年（2011）、中心街にオープンした、八戸の新たな観光拠点。八戸の魅力を凝縮して展示する八戸観光の入口（ポータル）であると同時に、シアターやギャラリーはアーティストや市民の活動の場として活用されている。館内にはカフェやショップも入居し、さ

まざまな楽しみ方のできる施設である。1階はっちひろばの法霊神楽のからくり時計は、毎正時に見事な一斉歯打ちを披露し、はっちのシンボルの一つとなっている。

【所感】

まず地域があって、そこで暮らす人が居て、みんな一人一人が主体になって、しっかり生活の中の実になるようなやり方が出来ないかと思って活動しているとのこと。『アートによるまちづくり』について詳しく、そして情熱的に語っていた。

アートの位置付けは、利害関係がないから内にすーっと入っていけることができ、お互いのことを知ってはいるけどあまり話をしなかったのが、アート活動によって本音でトークできるベースが出来ていくと思った。吉川氏の活動は人が繋がるきっかけ、本音で分かち合うきっかけの提供であって、作るのは地域の人々が主体である。知立市に於いても、地域の文化や風習を残しながら、しっかりと文化の継承をしていきたいと思った。

●一般質問

長野県東御市長 花岡利夫

【プロフィール】

- ・生年月日:昭和 26 年 4 月 6 日生まれ
- ・山口県宇部市出身
- ・信州大学農学部中退
- ・東御市長就任（平成 20 年 4 月 25 日）

【標高差 1500m の地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出】

・長野県東部にある東御（とうみ）市は、標高 1,750m にある湯の丸高原に高地トレーニング施設を整備し、世界の頂点を目指すアスリートを支援している。施設整備にあたっては企業版ふるさと納税などを活用し、完成後は競泳や陸上の選手を中心に多くのトップアスリートたちが合宿などに利用している。平地の少ないまちという欠点を、標高差のある高地トレーニングの適地という個性に変えて独自のまちづくりを進めている。

【所感】

標高差を活用したまちづくりへの取り組みをしているが、トレーニング施設は当初、国が主導で施設整備を行うことを想定していたものの、国としての整備の見通しが立たない状況が続き、国に頼らず自前で整備を進めることになったとのこと。巨額の建設費や建設後のランニングコストは企業版ふるさと納税をはじめとする寄付を財源にすることで議会や市民からの同意を取り付け、施設の建設がスタートした。その後、予算に組み入れていた補助金が入らないなど想定外のトラブルに見舞われ、寄付だけでは賅いきれなかったため総事業費 13 億円のうち約 7 億円の借入れを行ったという。その後、寄付やランニングコストが想定よりも低く抑えられたこともあり、2 年ほどで借入金を全額返済できる計画を立て、既に完済したとのこと。紆余曲折あったようだが、欠点を個性にし、発想の転換で独自性を打ち出す施策はとても参考になった。

●一般報告

(株) 鹿島アントラーズ FC 取締役副社長 鈴木秀樹

【プロフィール】

昭和 35 年八戸市桔梗野生まれ。

自衛隊少年工科学校を経て富士学校戦車教導団へ。

その後日本代表候補合宿へ召集され、日本リーグ2部の住友金属へ加入。

現アントラーズの創設に携わり、一貫して事業部門を歩む。

平成14年ワールドカップはカシマ会場責任者を務めた。

現在Jリーグマーケティング委員、筑波大学客員教授、茨城県サッカー協会副会長を兼務

【まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用】

Jリーグの強豪プロサッカークラブ「鹿島アントラーズ」が華々しい成績を重ねるまでの道のりは決して平坦ではなかったとのこと。同クラブの運営を担う鹿島アントラーズFCの鈴木秀樹氏は、マーケットの小ささという逆境を乗り越える戦略について語っていた。

【所感】

鹿島アントラーズが存在し続ける限り、多くのステークホルダーと良好な関係を築くことが必要となる。マーケットが小さいため、努力は不可欠だが、その努力は数字に裏付けされた効果的なものでなければならない。今後も鹿島アントラーズは、ローカルに根差しつつ、グローバル水準の経営を目指す"グローバル"という発想で歩いていくんだなと感じた。

また、スタジアムで生体認証の実証実験の顔認証は、安全面においても一番接触がなく行える。これからの社会では少子高齢化がどんどん進む中、働く世代がきちんと稼いで報酬を得て納税しないと地域は成り立たなくなる。そのためには労働以外の介護や医療でリソースが削られることを防ぐ必要があり、そこをテクノロジーで解決することが、今後、予想される社会問題を解決することにもつながると思う。地域と一緒にスマートシ



ティ実現に向けた取り組みは大変、参考になった。

◆日にち：令和5年10月13日（金）

【テーマ:文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展】

●パネルディスカッション

◆コーディネーター

・東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理

◆パネリスト

・合同会社 ima Jimu 代表取締役 今川和佳子氏

・拓殖大学商学部教授 松橋崇史氏

・静岡県沼津市長 頼重秀一

・京都府綾部市長 山崎善也

・文化とは、地域で生まれ、育まれ、継承されていくものである。

・地域文化には郷土の愛着や誇りを培いコミュニティを形成する役割がある。

・地方自治体には文化は余分なものとの認識がまだあるが、文化は「心の飯」であり、文化を大切にせよと強く主張すべきである。

・アートマネジメントを修めた人が、自発的に芸術文化の創造に参加していける仕組み（芸術サポートセンター）が求められる。

・文化と行政システムの両方に精通した専門家が地域にも必要である。

【所感】

地域文化を、地域で継承されてきたアマチュアの活動に基づく伝統的な文化とプロフェッショナルの活動に基づいた新しく創造していく文化の二つの側面から見ていくべきではないかと思う。地域文化の振興には、平均的水準の文化を全国に広めるという「文化格差の是正」と地域の独自の文化を高める「文化の自律性の確保」という二つの側面を考慮すべきではないかと考える。地域の文化は、それぞれの地域によって異なるものであり、地域文化の振興には模範解答はあり得ない。文化の多様性を保証することが大切で、行政が地域の文化を規定することはできないので、地域文化の振興には、地域の住民が参加する意識を持ってもらうことが大切であると感じた。